岐阜県中津川市立坂下小学校

ふるさと坂下と共に生き・高まる学校

ひとりだち

令和８年度　　第５号　　７月１７日

学校の教育目標

ひとりだちできる子になろう

坂下

- さわやか　あいさつ
- かっぱつ　発言
- しっかり　そうじ
- たのしく　運動
- ♪ひびく　歌声

ありがとうございました

校長　　丹羽　達也

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。本日、無事に70日間の第1学期が終了いたしました。昨年のこの時期は連日猛暑に見舞われ、毎日暑さ指数（WBGT）や天気予報を注視しながら、水泳授業の実施や下校時の安全確保に気をもむ日々でした。しかし今年度は幸いなことに、比較的安定した気候が続き、また、大きな事故やケガもなく無事に一学期を締めくくることができました。これもひとえに、ご家庭での温かいサポートと見守りのおかげと、深く感謝しております。

明日からは、子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。学校を離れる期間中も、子どもたちが事件や事故に巻き込まれることなく、安心・安全な生活を送ることができますよう、引き続き地域・ご家庭での見守りとご協力をよろしくお願いいたします。これからいよいよ本格的な暑さが予想されます。保護者の皆様におかれましても、どうかご自愛いただき、健やかにお過ごしください。



【坂下小学校校歌「学び草って何のこと？」】

校歌を繰り返し歌うことで、子ども達は「自分はこの学校の大切な一員なんだ」という自覚を深めていきます。歌詞の意味に触れることは、学校への愛着や誇りを育むことにもつながります。長く受け継がれてきた坂下小学校校歌の意味を紐解いてみたいと思います。

「坂下小学校校歌」

一　朝日たださす　坂下の
　　里においたつ　学び草
　　教えのつゆに　めぐまれて
　　いずれおとらず　しげるなり
二　清き流れの　木曽の水
　　根ざしにうけて　学び草
　　教えの庭に　おいしげり
　　いずれおとらず　におうなり

「坂下小学校校歌の意味」

一　朝日の光をあびて、キラキラと光がさしこむ、ここ坂下の
　　ふるさとで育っている「学び草（坂下の子供たち）」は
　　教えという恵みのつゆを、たっぷりともらって
　　だれひとりおとることなく、みんな元気に青々と育っています
二　きれいな水に囲まれて、清らかに流れる木曽川の水を
　　根っこからたっぷりと吸い込んで、「学び草」は
　　学校という庭で、ぐんぐん大きく育ち、
　　だれひとりおとることなく、みんな立派に花のように輝いている

「学び草」とは、坂下小学校で学んでいる児童のことを、未来に向かって伸びていく草に例えています。坂下小学校の校歌の歴史は古く、正確な記録は残っていませんが、少なくとも１００年以上の歴史があること、作詞者・作曲者は不明であることがわかっています。

坂下小学校の校歌も、今年が最後となりますが、これまで同様、全校で明るく元気に大きな声で歌うとともに、歌詞に込められた意味もかみしめて、心を込めて歌い継いでいきたいと思います。